◎東都花名所十二月(下)六枚三十錢
右は何れも丸山晩霞氏の筆にして發行所は日本橋通三丁目松聲堂なり

讀者の領分

注意 ◎印は編者の答。投書の要點のみを掲ぐ

■多年の希望は達せられた、大阪で大下大橋兩先生にお目にかゝつた時は實に嬉しかつた、講習は中々大義で辛かつたが又忘れがたい紀念が殘つた(關西畫狂兒)■口繪は石版と三色版と交互に出されたい、それから今一枚墨繪か木版色刷を加へて欲しい(KO生)◎第二項は讀者の數が增さなければ當分望まれません、序であるからお話しますが繪の入らない粗惡な紙に刷つた雜誌は大概定價の四分の一位ひで出來る原價がそんなに廉であつても猶雜誌では原稿料も出せぬといふ『みづゑ』の原價は定價と殆ど同じ程かゝる、其上寄送やら小賣店の割引やらで維持してゆくのさへよほど困難である、誌面の改良は飽迄も勉める考へであるが、經濟上に餘地がないからあまり金のかゝる御注文は當分御勘辨を願ひます■さぞ又『みづゑ』にて講習會の噂があるとだろうが、僕は今年は殘念ながら出席出來なかつた、來年も是非關西で開いて下さい(京都玉水生)◎奈良地方で開會する計畫もあります■大下先生が澁の方へ來られなかつたのは殘念であつた併し我等は河合丸山兩先生の親切なる教授に滿足して不平は言ひませぬ(失望生)■會員章はよく出來ました唯々感服の外なし尙S、C、Kとは春鳥會の謂に候哉(吉田生)■ヤー僕は四月上旬以來樺太に參つて居りまして諸君に失敬して居りましたが、今七月十五日歸りましたから相かはらず願ひます(函館港辨天通五十八、染葉、小島虎太郎)

問に答ふ

注意 水彩畫に關係あるものに限る ◎の印は答に一般に對して利益なきものは載せず

■一 山本鼎氏は彫刻家ですか二 石版の製版師になるのには繪の素養がなくては不可なりや(長野 ○N生)■一 畫家にして彫刻に趣味を持たるゝ人二 必要なり■農商務省地質調査處編、地質圖の販賣所は何處なりや(淺草SN)◎知らず

長彩會

●明治三十九年九月二十四日成立●會場麻布區霞町十七番地金江宅●會員赤壁德彥、中村正敏、河鰭達夫、岡田三郎、田中饒、金子保、小田部誠、新井正俊、金江龜●年四回展覽會を催ふし、毎月第一日曜日に研究會を開く以上(金江龜氏所報)

編者より

◎工藤清波氏へ 峰の松は苦心の作であらうがあまりに透明色が多過て遠近の調子が少しも見えぬ、總てが固く紙面に空氣がない。夏の川も同樣中景が前へ出て來て繪に深味が見えぬ◎立花氏へ 結構な作である家の工合が箱庭の陶製のやうに見える、水鳥の位置がよくない◎千葉氏へ 色が單調である影の色もあまり明る過る、綠にエメラルドグリーンを多く用ゐぬやうにされたい◎小林氏へ スケッチとしてはこんなことでよいでせう◎宮澤氏へ 面白い出來と拜見しました家但屋は一研究されたい